

(様式1)

## 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和2年度分)

&lt; 県の評価等 &gt;

施設所管部名

地域連携部

## 1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立熊野古道センター(尾鷲市大字向井字村島12番4)
指定管理者の名称等	特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク 理事長 林 伸行(尾鷲市野地町12番27号)
指定の期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1)センターの事業の実施に関する業務 2)センターの利用許可等に関する業務 3)センターの利用に係る料金の収受に関する業務 4)センター施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5)センターの管理運営上必要と認める業務

## 2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R1	R2	R1	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B			熊野古道やその周辺地域に関する情報発信や交流の拠点として、自然、歴史、文化等の地域資源を活用した様々な企画展や体験学習、講座・講演会、地域内外との交流イベント等を実施している。 また、新型コロナウイルス感染防止対策として、ガイドライン作成や来場者への啓発を行いながら、必要に応じて、休館措置(38日間)や主催事業の中止・延期等を行うなど、来場者が安全・安心に利用できるような運営を行っている。 定期点検や修繕等により、施設や設備等を良好な状態に保つとともに、省エネ・環境負荷低減に取り組むなど、適切な維持管理を行っている。
2 施設の利用状況	B	B			新型コロナウイルス感染症の影響等により、来場者数は、97,160人(前年度比24.5%減)にとどまり、目標値(115,000人)を下回った。一方、施設稼働率は53.8%(前年度比4.7%減)となり、目標値(50.0%)を上回った。 また、企画展や体験学習、講座・講演会等を開催するとともに、貸館により地域の団体等に活動の場を提供している。さらに県内の小中学校を中心に体験教育旅行(83校4,712人)を受け入れ、世界遺産学習等を実施している。
3 成果目標及びその実績	B	B	+		成果目標の8項目のうち、7項目は目標値を上回った。特に、令和2年度は、体験教育旅行を積極的に受け入れたことから、「学校連携事業」は目標値を大きく超える結果となり、コロナ禍においても一定の成果に結びついた。しかしながら、「来場者数」は、休館やイベント自粛等の影響もあり、目標値を下回った。

※「評価の項目」の県の評価 :

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>1 成果目標に対する達成度 成果目標の8項目のうち、「学校連携事業」や「国内外の世界遺産登録地等との連携事業」等の7項目は目標値を達成したものの、「来場者数」は目標値を下回った。</p> <p>2 残されている課題 社会見学や体験学習等の機会も活かしながら、地域内外においてセンターの存在や活動内容等のPRをして認知度をさらに高めることなどにより、センターへの来場をより一層促す必要がある。 また、引き続き、魅力的な事業の企画や各事業の一層のPRに努め、新たな熊野古道ファンやリピーターを獲得し、来場者数の増加につなげる取組を進める必要がある。 また、専門知識を持つ人材の確保・育成は、今後も継続して取り組む必要がある。</p> <p>3 その他 (1) 利用者ニーズの把握及び事業等への反映 アンケート等により利用者ニーズの把握に努め、運営に活かす仕組みも機能していることから、利用者の満足度は高い数値(99.0%)を維持している。また、関係機関や地域団体と連携することで、企画展や体験学習等の取組を、より魅力的なものにしている。</p>
--------	---

総括的な評価  
(続き)

- (2) 施設の適正な維持管理の実施  
日々の巡回や定期点検を行い、良好な維持管理に努めるとともに、省エネルギー対策にも継続して取り組んでいる。
- (3) 危機管理  
新型コロナウイルス感染防止対策に徹底して取り組んでいる。また、消防署と連携して自主防災訓練等を行うことで、災害等緊急時における救急救命方法や消火設備の操作方法など、職員の対応能力向上を図っており、適切な危機管理を行っている。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により1項目の目標値を達成できず、上記2の課題も残されているものの、熊野古道やその周辺地域の魅力を広く発信するとともに、体験教育旅行の受入れ、地域の資源を活用した企画展や体験学習、講座・講演会等を実施している。  
また、地域の魅力を新たに掘り起こし様々な形で紹介したり、交流拡大につなげるなど地域の振興に寄与しているほか、小中学校への出前授業等を企画するなど課題の改善に取り組んでおり、三重県立熊野古道センターの管理者として適切な運営を行い、実績を残していると評価できる。

## <指定管理者の評価・報告書(令和2年度分)>

指定管理者の名称:特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク

### 1 管理業務の実施状況及び利用状況

#### (1)管理業務の実施状況

##### ①センター事業の実施に関する業務

- ア 情報収集・集積発信事業  
熊野古道やその周辺地域の自然、歴史、文化、民俗に関する図書資料を収集するとともに、古文書の解説を行い、江戸時代に熊野古道伊勢路を歩いた旅人の心情についての情報収集に努めた。
- イ 交流事業  
ア)交流イベント  
恒例の「おわせ陶の会作陶展」「向井地区盆踊り」等は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。その中でも、万全な感染対策をとって「初めての音楽祭～0歳から楽しむコンサート～」 「ワンコインコンサート弦楽四重奏LESS IS MORE」を開催し、それぞれ100名、96名と会場制限人数に達する参加者を集めた。
- イ)体験学習、講座・講演会  
体験教育旅行の事業に県内小中学校等から、83校4,712名におよぶ参加者を得た。古文書講座は、新型コロナウイルス感染症の影響により4回中止した。新規の新熊野学講座は、3回実施して100名の参加者を得た。
- ウ 情報発信事業  
ア)企画展  
「わが郷土のお祭り」では紀伊長島に伝わる「船だんじり」を、「写真で懐古・故郷の暮らしと風景」では尾鷲市を取り上げた。熊野ネイチャーシリーズとして「銚子川」の魅力をもっと紹介できた。「聖ヤコブへ続く巡礼の道」では三重県と提携を結んだスペイン・バスク自治州を中心に紹介できた。また、この時展示されたパネルの一部を県内外各地で巡回展として発信した。全ての企画展で総計65,061名の参加があった。
- イ)情報誌等の発行  
イベント等の情報を3か月毎にまとめた「三重県立熊野古道センターからのてがみ」を4回発行した。東紀州地域の自然等を紹介する「くまの・みち叢書」第14巻として「くまのみちを歩く・1～神宮から瀧原宮～」を発行した。
- ウ)ポスター・パンフレット等によるPR  
ポスター・パンフレット等を作成し、企画展や交流イベント等を県内外(三重テラス、県関西事務所、熊野本宮館等)にPRした。
- エ)ホームページ等による情報発信  
ホームページやメールマガジン、インスタグラム等を通じてイベント等の情報発信に努めた。
- オ)テレビ等マスコミでのPR  
取材や撮影には積極的に協力し、事業内容のPRを行った。テレビの効果は大きく、翌日の来場者数に強く影響するので今後も良好な関係を築いていく。

##### ②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ア 日々の巡回や定期点検等により、施設や設備・機器類の適正な管理に努めた。
- イ 展示設備や映像機器の故障等は速やかに修繕を行い、サービスの低下を招かないよう対処した。
- ウ 個々の修理  
・エアコン膨張バルブ、冷媒の交換等(計24日)  
・太陽光発電設備コンバーター故障(応急処置で対応)  
・電話設備交換(県紀北地域活性化局)  
・自販機設置  
・Wi-Fiルーター整備(全館使用可)  
・映像ホール大型プロジェクター故障(令和3年1月、修理不可)
- エ 今後の見通し  
・映像ホール大型プロジェクター及び空調機器を令和3年度に更新する予定である。  
・太陽光発電設備、浄化槽など経年劣化による故障のリスクが高まっている箇所について、予算の定めるところにより、計画的な修繕を行っていく。

**③県施策への配慮に関する業務**

- ア 人権尊重のための取組  
人権意識を向上させるため、職員研修を行うとともに、身体障がい者や高齢者等が利用しやすい環境づくりに取り組んだ。
- イ 男女共同参画社会実現への取組  
職員がその適性に応じて能力を発揮できるよう、男女ともに企画、広報、庶務等様々な業務を経験することとしている。
- ウ 持続可能な循環型社会の創造に向けた取組  
世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」にかかる文化的景観の保護保全の努力を強化している。

**④情報公開・個人情報保護に関する業務**

- ア 情報公開実施要領の制定状況  
情報公開実施要領を制定し、要領に基づいた適切な対応ができるよう研修を行った。令和2年度は開示請求はなかった。
- イ 個人情報保護に対する取組  
個人情報保護規定に基づき、個人情報を適切に扱った。

**⑤その他の業務**

該当なし

**(2)施設の利用状況****①施設の利用の許可**

施設名	利用件数	利用人数
企画展示室	0	0
映像ホール	16	204
会議室	35	82
和室	29	175
体験学習室	25	172
小ホール	30	519
大ホール	27	1,100

**2 利用料金の収入の実績**

施設の利用に係る収入額は、244,610円で利用料の減免については7件ですべて承認した。

**3 管理業務に関する経費の収支状況**

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	R1	R2		R1	R2
指定管理料	68,368,000	68,996,000	事業費	9,215,587	9,275,971
利用料金収入	369,610	244,610	管理費	65,551,524	63,423,845
その他の収入	1,464,050	2,780,499	その他の支出	0	0
合計 (a)	70,201,660	72,021,109	合計 (b)	74,767,111	72,699,816
収支差額 (a)-(b)	△ 4,565,451	△ 678,707			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	7,400円
---------	--------

## 4 成果目標とその実績

成果目標及び実績	項目			
	項目	目標	実績	達成率(%)
	1 施設稼働率(%)	50	53.8	107.6
	2 来場者数(人)	115,000	97,160	84.5
	3 地域の歴史・文化に関する 情報収集・集積の結果発表			
	1)東紀州地域内での開催(回)	10	12	120.0 (企画展の回数)
	2)東紀州地域外での開催(回)	2	2	100.0
	3)県外での開催(回)	1	1	100.0
	4 国内外の世界遺産登録地 等との連携事業(回)	2	4	200.0
	5 学校連携事業(校)	25	92	368.0 (体験学習、体験教育旅行を含む)
	6 利用者の満足度(%)	95.0	99.0	104.2
	※施設稼働率算出式＝利用日数/開館日数×100 (企画展示室、映像ホール、会議室、和室、体験学習室、大ホール、小ホールが利用対象。 内部打ち合わせ、映像ホール定時上映利用を除く) ※来場者数は、センター以外の会場で実施した事業の参加者を含む。			
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●来場者数目標115,000人のところ97,160人となった。理由としては、コロナ禍での38日間の休館や主催事業の中止・延期が挙げられる。中でも、達成率が84.5%に留まったのは、県の事業である体験教育旅行によるところが大きい。今後も社会見学等での来館を促したい。</li> <li>●東紀州地域外での発信事業の開催回数を増やし、センターの存在と価値を広報したい。</li> <li>●親子連れ(未就学児)の来場者が令和元年度から増えている。令和2年度はスラックラインや焼いも体験等を企画し、1,094人の参加者を得た。引き続き親子が楽しむことができる企画を創出したい。</li> <li>●熊野本宮館のみならず他県の世界遺産登録地との連携を推進したい。</li> <li>●学校連携事業においては、地域の学校への「出前授業」を推進したい。次世代に世界遺産の保全と活用に対する意識を育てたい。</li> </ul>			

## 5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R1	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B	熊野古道等に関する情報発信や交流の拠点として、熊野古道やその周辺地域の自然、歴史、文化等の地域資源を有効に活用した様々な企画展や体験学習、講座・講演会、地域内外との交流イベント等を実施している。令和2年度は、4月当初から新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に実施できた。事業については、特にセンター開館時期からの目的である熊野古道伊勢路に関する情報の収集と発信、地域住民との交流に努めた。県がスペイン・バスク自治州と覚書を締結したことを記念して各種企画展を県内外の会場で開催した。コロナ禍で県外への修学旅行の実施が難しい状況の中、県地域連携部事業の体験教育旅行で83校の小中高特別支援学校等が来館し、世界遺産学習や尾鷲ヒノキを利用した体験学習を行うことができた。
2 施設の利用状況	B	B	企画展や体験学習、講座・講演会等を開催するとともに、貸館により地域の団体等に活動の場を提供している。令和2年度から大小ホールに利用料金を課すことにより利用率の低下が予想されたが、施設稼働率は53.8%(前年度58.5%)となり、休館措置(38日間)を実施した中でも一定の水準を維持することができた。
3 成果目標及びその実績	B	B	成果目標のうち、来場者数だけが達成できなかったが、体験教育旅行の事業の効果は大きかった。また、来場者に親子連れが目立って増えており、再訪してもらうための工夫が必要である(滞在時間と回数)。

※評価の項目「1」の評価：

- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。  
「B」→ 業務計画を順調に実施している。  
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。  
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価：

- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。  
「B」→ 当初の目標を達成している。  
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。  
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上記の評価に至った根拠・理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果目標に対する達成度：来場者数については、体験教育旅行や移動展で約10%を確保している。コロナ禍の中、来場を促すにも制約があり難しい状況であった。今後も、ある程度この状況が継続するものと思われる。学校連携の「出前授業」等については、令和元年度に比べて、学校数・参加者数ともに減少したが、体験教育旅行との兼ね合いで、地元学校の社会見学等が例年に比べ減少したことに起因していると思われる。令和3年度は、早期の周知等に努め、実施数を増やしていきたい。</li> <li>・残されている課題：令和3年8月の熊野尾鷲道路のIC接続による尾鷲市街への流入車両の減少がセンターへの来場者数減に繋がると予想される。センターでの社会見学、体験学習等の活動をPRして誘客を促したい。</li> </ul> </li> <li>●適切な維持管理：開館14年を経過し、施設設備や機器類の劣化が加速度的に進んでいる中、利用者が安全安心かつ快適な環境で施設を利用できるよう、優先順位を付けたうえで必要な対応を県と協議し、保守修繕に取り組んだ。今後もサービスの低下を招かないよう適切な維持管理に努めたい。</li> <li>●アンケートの実施：体験教育旅行利用者の意見や提案を分析し、改善方法等について検討を重ね、事業内容や経営に活かして、今後の社会見学へのつなぎとしたい。</li> <li>●施設利用者(貸館)の公平な利用申込を図るため、ホームページ上で利用状況の更新をリアルタイムで行った。</li> <li>●自然災害等による熊野古道の通行状況をセンターで集約し一元化するとともに、ホームページ上で発信するシステムを構築した。</li> </ul>
--------	---